



ふれあい通信

第一七六回史跡ウォーク チーム彩

「明智光秀と坂本城址：西近江路を歩く」

坂本は、比叡山に抱かれた扇状地で、目前には琵琶湖が広がり、水上輸送の終着点である坂本港で近江国と越前国を結ぶという陸海路の交通の要所でした。山麓は、延暦寺、日吉大社の門前町として発展し、比叡山の僧が隠居所として過ごした里坊が穴太積の石積と相俟って現在の景観を形成しています。

本年は伝教大師最澄千二百回忌にあたり生誕地の「生源寺」や坂本城築城四五〇周年にちなんで坂本城址と西教寺周辺の光秀ゆかりの地を訪ねます。特に、宣教師フロイスが紹介した坂本城は安土城に次ぐ天下の名城と当時言われ、城下町として栄えました。今は地名や街並みの面影が残るだけですが、西近江路、旧街道筋の古民家や周辺の寺社など往時を偲んで辿ってみましょう。

●日時 一〇月一七日(日)受付九時～九時半
●集合 京阪石坂線 坂本比叡山口駅前
●コース 生源寺→西教寺(指差し説明)→聖衆来迎寺→旧比叡辻→酒井・両社神社→坂本城跡→東南寺→明智塚→坂本城址公園→盛安寺→高穴穂神社→京阪穴太駅(解散)
●会員の皆様へ
チーム彩の会員は八時に、その他会員は八時半に集合をお願いします。

穴太衆積みの石垣

延暦寺の門前町・坂本には、穴太衆と呼ばれる石工集団がいました。穴太衆による石垣の特徴は、加工しない自然石を巧みに組み合わせる「穴太衆積み」という技法で作られ、戦国時代には城壁にも用いられました。安寧を祈る里坊の町には美しい町の景観を作り出し、穴太衆積の技術は今でも継承され楽しませてくれます。

あまり知られていませんが、今回のウォーク解散場所穴太駅近くの「盛安寺」の野面積の石垣は見事です。



盛安寺の石垣

京都史跡ガイド
ボランティア協会
会長 山田久男
編集 澤田 卓



近江坂本が面白い：輝いていた歴史

チーム彩 矢野 正明

かつて坂本にも輝いていた時代がありました。古くは渡来系氏族が住み、穴太、袁立山などの古墳群が発見されています。

二千年前、12代景行天皇、13代成務天皇、14代仲哀天皇三帝が住んだ「志賀宮高穴穂宮」があり、大津で最初の都と伝えられています。
平安時代には、この地で最澄が生まれ、比叡山延暦寺と日吉大社の門前町として栄えました。延暦寺は京都にあると思われる人も多いですが、所在地は大津市坂本本町です。また、長い間、北陸と畿内をつなぐ交通の要所でもありました。

室町時代には、近江一の酒屋、土倉、問丸が密集する経済の街として発展しました。明智光秀が坂本城を築城し、城下町を整備した戦国期は、最盛期と言えましょう。やがて、城は大津、膳所と移り廃れていきました。

しかし、徳川家康が天下を取り、三代将軍家光の頃、延暦寺が家康に寵愛された天海僧正ゆかりの地であることから坂本は延暦寺とともに厚遇され、坂本に再び細やかな灯がともります。江戸時代初期には本格的に銭貨が流通し、「寛永通宝」が日本で本格的に铸造されました。铸造された最初の銭座は全国で三カ所あります。二座は江戸にあり、後の一座は京でなく、なんとこの地、坂本にありました。坂本はこれを最後に華やいた話は聞かれません。

再三再四延期となった史跡ウォーク「明智光秀と坂本城址：西近江路を歩く」がいよいよ実現することになりました。山と湖に囲まれた風光明媚な坂本の里を歴史のロマンを感じながら辿ってみませんか。



流出した日本美術の至宝

チーム華 富永正治

明治以降、多量の日本美術品が海外へ流出しました。海を渡った作品の中には国宝級の作品も多数含まれていました。

これらの美術品はモース、フェノロサ、ビゲローなどの外国人コレクターが丹念に古美術商を歩き回りリスクを取って購入した物であり、略奪した戦利品でもなければ、商売目的で取引された品でもありません。彼らは当時の日本が西洋文化を過剰に崇拝し、日本の伝統的文化や芸術は価値がないとみなしていた時代風潮の中で見捨てられていた日本美術に純粹に惚れ込み、贋作をつかまされないように努力、研究して鑑識眼を磨いていました。たとえばフェノロサは、狩野永恵（えいとく）に師事し、鑑定状発行の資格を得て画号を「狩野永探」として、息子の名前をアーネスト・カノーとしたぐらいです。墓もビゲローとともに三井寺子院の法名院にあります。

我が国がこれらの作品を自国に留め置こうと思えば出せない金額ではなかったにも拘らず、日本人は買いませんでした。自らが見捨てた美術作品を彼等が買ったとして、それを責める事が出来ないでしょう。日本人が気付かなかった（無視してきた）日本の美術品が持つ価値を外国人によって気付かされたといえます。彼らに購入、蒐集、保存されなければ廃棄、散逸、行方不明になった可能性が高く、美術品は「何処に所蔵されているか」より「後世に残す事」こそが大切ということからいえば、日本美術にとっての恩人ともいえるでしょう。

平清盛の疱瘡神社

チーム雅 今井 満

素戔鳴命が貧しい蘇民将来に、一夜の宿を借り、悪疫から子孫を守る伝承から、一月十九日の八坂神社例祭では茅の輪くぐり、祇園祭で「蘇民将来之子孫也」の護符が授与され、七月三十一日が夏越祓で茅の輪くぐりがある。

八坂神社に疫神社があるが、平清盛は末娘の天女姫の発熱で、都の名医を集めて診せたが良くならず、安芸守時代から崇拝してきた厳島大明神に願をかける為、瀬戸内海を二十日かけて西下し、厳島に参拝した。

清盛は厳島では多数の僧侶を集め「南無厳島大明神様、姫の業病を癒してくだされ」と祈り、寒中にかかわらず弥山の中腹の白糸の滝に打たれ斎戒沐浴したことで、三日目には姫に生気が表れたので都に戻るようになった。

しかし神社の西方の湊から船が陸を離れてすぐ天女姫は、十四才の生涯を終えた。

清盛は神の島に姫を葬ることはできず、神に弔う場所を占うと、「東方七里の地にある丘の上に赤旗があるところに葬り、疱瘡神として懇ろに供養せよ」と、お告げがあった。

そこで船に遺骸を乗せ、仁保島の向かいの向洋の丘に副葬品に金銀十二枚と姫が身につけていた一寸八分の黄金仏と玩具類七点を埋め、土盛りして梅檀の木を植えた。

清盛は埋めた天女姫の遺骸が、狐や狼に喰われては一大事だと、国中の作事人を動員して向洋を半島から切り離し島にした。さらに西方の極楽寺山の靈感から「この地に疱瘡神と奉るだけでなく神社を鎮祭りして衆生を助けるべき」との託宣をうけ疱瘡神社を建立した。この掘削工事が、マツダの工場近くに堀越や堀口の地名を残し、疱瘡神社も現存するが、今は天然痘も収まり訪れる人は少ない。

『驚き、桃の木、明治の記』⑦徳川慶喜（中編）

チーム葵 今川博明

前回に続き、徳川慶喜の紹介です。

慶喜は、やはり稀有な運命をもっていたような気がします。①徳川家歴代將軍の中で、正室の息子で將軍になったのは、家光と慶喜だけでした。②徳川家歴代將軍の中で、正室で大奥に入らなかったのは、家光と慶喜の妻だけです。③將軍になる直前は、江戸ではなく二条城すぐそばの神泉苑前にあつた若狭小浜藩京都邸にいた。（約四年間滞在し、越前の松平慶永、会津の松平容保、土佐の山内豊信、宇和島の伊達宗城、薩摩の島津久光など各藩主も出入りをしていた）④將軍になってから一度も江戸城に入ることにはなかった將軍（二条城にいた）だった。⑤日本橋の銘板の揮毫は慶喜のもので、今は保存されている日本橋の石柱の文字も慶喜です。⑥慶喜は將軍後見職として將軍を補佐するようになると、暗殺を恐れて妾2人を川の字かYの字の形に寝かせていました。それは刺客が来たときに早く気付けるようにしたからです。また、隠居後も妾の女性と同居していました。妾同士が仲良しだったことや子供と分け隔てなく接していたという記録が残っています。妾の子どもだけでなく、静岡の近所の子どもとも仲良く過ごしていたことから地元の人からは「ケイキ様」と慕われていたそうです。⑦慶喜は大政奉還後に静岡市へ隠居します。最初は静岡市葵区紺屋町（現在の浮月楼）に住んでいましたが、その後、葵区西草深（後に葵ホテルとなり、また旧エンバーソン邸等が建てられた場所）に転居します。この転居の理由は「東海道線開通に伴う騒音」と言われています。なお、慶喜は新居の完成が待ち遠しかったらしく、自ら自転車で頻繁に見に行ったそうです。

佐久間象山の志賀高原開発

チーム雅 島田 宗人

スキー場に興味のある方は「東館山」「焼額山」に聞き覚えがあると思います。これらは長野五輪のスラローム会場になった志賀高原のグレンデです。麓には「渋・安代」「湯田中」「角間」の温泉郷が控えています。

佐久間象山は、天保十四年（一八四三）松代藩の郡中横目役に就き、領内三カ村（現山ノ内町・志賀高原）の殖産事業を興します。原野を拓き馬鈴薯や薬草を植え、楮や漆を植林しました。養豚、ぶどう酒製造等、自ら学んだ西洋の実学を実践して藩利を増やすことを企てました。嘉永元年（一八四八）夏、奥志賀の岩菅山に登り、秋山郷を経て越後に抜けるルートを探索します。途中銅鉱脈を発見して、採鉱を試みます。このルートは現在の「上信越高原国立公園」の中央部にあたります。

探査録の『杳野日記』は、奥志賀のハイキングコースと比べて読むと興味があふれ、象山の思考と人間性が良くわかります。寒暖計を持参して気温を記し、山野の地勢・産物、有用な鉱物の様子が詳しく記録されています。硯川（熊の湯）では温泉源を探り当て整備をして、草津・白根山に足をのびします。

蘭語を修得し、『ショメールの百科全書』で西洋科学の研究を進めていた象山は、実践の場として領内での殖産興業を試みました。計画は、人夫の徴発に反発する村人の強訴や藩内の反対で実現が困難でした。一方同時期に電信実験、ガラス、大砲、電気治療器の製作、種痘などを次々に行います。

象山は、著書に西洋の自然科学を学び自ら経験して作ることを「西洋の芸術」として、「東洋の道徳」と並ぶ君子の楽しみであると記しています。

京都の地味な話

「明治になって出来た神社」のいろいろ

チーム彩 奥西不二

平安神宮がいつ頃出来たかと聞かれてすぐ答えられる、と言う方は以外と少ないかもしれません。

平安神宮の創建は岩倉具視の建白書からはじまります。彼は東京奠都によつて天皇がいなくなつた京都の再建案のいくつかを建白する中で、平安京を開いた桓武天皇を祀る神社を創建したいと述べています。現在の仙洞御所の場所を候補に挙げていましたが、具体的に議論されることもなく明治十六年に亡くなります。

明治二十八年に第四回内国勸業博覧を岡崎で行うことになりました。その主要なパビリオンとして平安宮の大極殿を模した建物をつくることになったのです。これが平安神宮です。またその前年が平安奠都千百年に当たっていました。また日清戦争のために祭礼・催事が翌年に繰延べされ、それに合わせて平安時代最初の桓武天皇をお祀りする神社を創ることもなかったのです。平安神宮のお祭として時代祭もこれを機にはじまりました。昭和になつて京都最後の天皇、孝明天皇も合祀されます。今出川堀川東の白峯神宮は飛鳥井町にあり、その名のとおりに飛鳥井家があったところ。蹴鞠を家業とする家柄で摂社の精大明神は蹴鞠の守護神です。今もサッカーの聖地として多くの参拝者が訪れます。だがほとんどの人は祀られているご祭神が崇徳天皇であることには関心がないようです。崇徳上皇は保元の乱に敗れ讃岐に配流されましたが、朝廷は怨霊神となつて都に災いをなすことを恐れていた

ました。明治元年、明治天皇は都を離れる前に父孝明天皇の意志を受け継ぎ、白峯神社の創建を宣命し御霊を讃岐から移された翌日に参拝しました。明治六年には孝謙天皇に追われた淳仁天皇も御魂を淡路から移し合祀されています。明治になつても御霊信仰は絶えていなかったのです。

足腰の守護神社と言え、御苑の西側にある護王神社ですが、もとは神護寺にあった和氣清麻呂を祀る護王善神堂を明治七年に護王神社と改名し、現在の地である旧中院家跡地に遷座されました。これも明治天皇の勅命だったそうです。和氣清麻呂廟は現在も神護寺境内にあります。

「けんくんさん」でお馴染みの建勲神社ですが、ここも明治二年に明治天皇の御意志を受けて創建されました。祭神は織田信長で織田信秀・信長父子は朝廷に多額の献納をしたことを称え廟祀するようにとの奉呈があったのをうけて創建されました。

同じような意味合いで明治十三年に豊臣秀吉を祀る豊国神社が別格官幣社として再建されています。国宝の唐門は伏見城の遺構とも言われています。

他には、お国のために戦った英霊を祀る我が国最初の「官祭招魂社」の京都霊山護国神社、水無瀬神宮は後鳥羽・順徳・土御門の三帝を祀られています。江戸時代までは仏式で供養されていましたが、明治になつて神式で祀るために神社が創建されました。初の神前結婚が行われたのが寺町四条を下がつたところにある京都大神宮、明治十八年には三条実美を祀つた梨の木神社、大正五年には京都乃木神社が伏見の明治天皇陵の傍に創られ、昭和十年には山科に大石神社が建てられました。まだまだありますがこれくらいにしておきます。

面白発見

幻のレジャーランド愛宕山

チーム雅 秋房 麻理

千日詣りの愛宕山。戦前はレジャーランドだったことをご存じですか？

清滝から表参道を登り、水尾分れを過ぎてハナ売場手前を右に入って行くと、かつて愛宕山に走っていたケーブルカーの山上駅の跡があります。昭和四年に開業、清滝から山上駅まで十五分で結んだそうです。山上駅の近くにはホテルや遊園地もあり、ケーブルカーの上手にホテルの遺構も残っています。なんとホテルは水洗トイレも完備だったとか。

また、麓の清滝までも嵐山から電車が走っていました。現在「清滝道」と呼ばれている、路線バスが走る道路がかつての軌道で、清滝トンネルもその電車のトンネルでした。

第二次大戦で金属が不足し、不要不急の観光路線であったケーブルカーと電車は昭和十九年に廃線の憂き目に遭い、レールも供出させられました。



戦後も復活することなく当時の施設跡は廃墟になっています。

京都の空襲と原爆投下

チーム華 富永正治

京都には空襲がなかったという人もいますが、そんなことはなく、確認されているだけで5回空襲に見舞われています。

(いずれも一九四五年)

第一回 一月一六日 東山区馬町 死者四一人、重軽傷者五六人、被災家屋一四〇戸以上
第二回 三月一九日 右京区春日通 (被害不明)

第三回 四月一六日 右京区太秦 死者二人 重軽傷者四八人

第四回 五月一日 京都御所 (被害不明)

第五回 六月二六日 西陣 (上京区出水) 死者四三人、負傷者六六人、被災家屋二九二戸

さらには広島と並んで原爆投下の最有力候補地Aでもありました。候補地は一九四五年五月一日に決定され、七月二五日に長崎が追加されました。

AA (広島・京都) A (横浜・小倉) B (新潟)

※ 京都の投下目標は、上空から見て視認しやすい円形の転車台のある梅小路機関車庫原爆投下地の選定基準は、「原爆の威力を検証するのに適しているかどうか」であり、文化財の密集地であるかなどは考慮されませんでした。具体的には、

① 都市域が直径四、八km以上の広さ

② 爆風が最大の効果を発揮できる地形 (盆地) 八月の原爆投下まで大規模な空襲を受けていないこと

候補都市は原爆の威力や効果を正確に測るため、爆撃せず無傷のままにしておく必要があります。皮肉なことですが、京都は原爆

投下候補地になったが故に、東京や大阪、名古屋のような大空襲を受けなかったと言えます。

最終的に京都を原爆投下候補都市から除外したのは、文化財保護の目的ではなく、千年以上も日本の都であった京都を原爆によって破壊することによって日本国民の反感を買い、戦後統治を困難にするという政治的理由からと言われています。



梅小路機関車庫

原爆投下計画図
円内 2.4 km全滅予想

お知らせ 先月号の誤記載を訂正します

★ 第一七七回ウォーク 一月二一日 (日) 「逢坂関から山科・奈良街道へ」 チーム葵
東海道近江路は逢坂関から、山科の里へ、追分交差点から奈良への旧街道を訪ねます。
京阪京津線 大谷駅集合

★ 第一七八回ウォーク 一月一九日 (日) 第四回 京都史跡ガイドの無料研修
十一月二三日 (祝) 一三時半〜人まち交流館